

谷瑞恵

『まよなかの青空』

後悔だらけの人生をやり直すために

母の束縛から逃れ上京したが、恋人の母親から手切れ金を受け取ってしまった33歳のひかる。優等生から抜け出せないでいた、現在バツイチのウェディングプランナー日菜子。ブラック企業で心をすり減らしながら働く達郎——。うまくいかない人生を抱えた三人が絡み合い、ひかると達郎は、ひかるの父の謎のメッセージに導かれ、「あおぞら号」にいたという幸運をもたらす「ソラさん」を探す旅にでる……。



小説を読み解くキーワード

キーワード①

修学旅行生の友！ 特別列車「あおぞら号」

主に修学旅行生向けに作られた、近鉄の世界初の二階建て貸切列車の愛称。関西方面の方々は修学旅行の思い出とともにある人たちも多いようです。



キーワード③

寄せ木細工のからくり箱

ひかるが小学6年生の時父からもらった簡単には開かない仕掛け箱。ほしいものを頭に描いて開けるとそれが手に入ると教えられた。高校の同級生の日菜子が出会ったソラさんも、同じことを言って、からくり箱を見せてきたという。

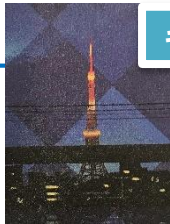


ベストセラー
「思い出のとき
修理します」の
著者の新境地！

キーワード②

都市伝説の「ソラさん」

同じ学校の生徒しか乗っていないはずのあおぞら号にいる見知らぬ乗客。時に着物姿、時に戦時中のような格好という話もあれば、ごくふつうの姿でおしゃべりしているとも言われる。その不思議な乗客を見かけた人には幸運が訪れるという。



キーワード①

東京タワー

東京タワーのレストランでひかるは働いている。日菜子にとっては、ひかると高校の修学旅行で行った思い出の場所。

著者紹介——たに・みずえ

三重県生まれ。1997年『パラダイスルネッサンス——楽園再生』でロマン大賞佳作入選し、デビュー。以降、集英社コバルト文庫やオレンジ文庫を中心に活躍。代表シリーズに「伯爵と妖精」「思い出のとき修理します」(シリーズ累計81万部突破)「異人館画廊」など。単行本作品として『がらくた屋と月の夜話』『木もれ日を縫う』『額を紡ぐひと』など。

捨ててきた過去と向き合う、

大人のための再生の物語——

文藝春秋 プロモーション部
03-3288-6142 pr@bunshun.co.jp